



会山行「櫛形山～春夏秋冬～」秋篇の実施報告



(報告) K. M.

本会山行は、春夏秋冬を楽しめる「とっておきの山」として、T 会員から提案を頂きました。標高も高からず低からず、位置的にも関東及び東海地区からも適している。また、この山域を季節を変えながら実施することで、風土や歴史や文化的な側面にも触れることができるという、新たな視点からの会山行として、6月例会の承認を受けました。

この度は、その第一弾の秋篇として、櫛形山の紅葉とその山麓にある高尾穂見神社の夜神楽を組み合わせて実施するものです。実施概要を以下のとおり報告します。

1. 計画概要

- (1) 日程：2022年11月22日(火)～23日(水)
- (2) 山域：櫛形山&高尾穂見神社(夜神楽)
- (3) 参加者：10名
- (4) 宿泊地：南アルプス市営温泉樹園
山梨県南アルプス市野牛島 2722 TEL055-285-4131
- (5) 予算：12,500円(一泊夕食のみ 6,380、交通費他 6,000円)
- (6) 日程：
11月22日 12:30 釈迦堂 PAにて集合し昼食&「釈迦堂遺跡博物館」見学。
15:00 市営温泉「樹園」。夕食後、高尾穂見神社夜神楽
11月23日 5:30 起床～8:00「樹園」宿出発。状況を踏まえ①②を選択する。
① 展望台～北尾根登山道～あやめ平休憩舎～裸山～同ルートを下山
② 伊奈ヶ湖～中尾根登山道～櫛形山～裸山～北尾根登山道～伊奈ヶ湖 15:30 帰路に着く

2. 実施報告

11月22日、I、S、T、Fの各車に分乗して、各自集合地である釈迦堂 PA にむけて出発。天気は申し分なく、色づく紅葉を愛でながらのドライブとなる。集合時間の12:30には各車が釈迦堂 PA に到着。まずは腹ごしらえの昼食をとり、隣接する「釈迦堂遺跡博物館」を訪ねるも火曜日は休館ということで見学できず。明日の登山口となる伊奈ヶ湖に向かうことにする。

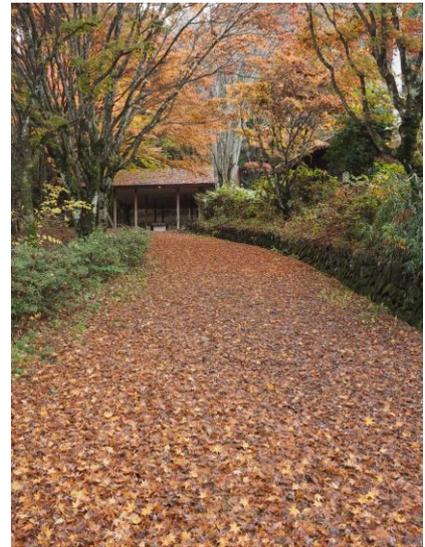
櫛形山は、遠目で見る様相とは異なり、山麓に近づくと従い、その黒い大きい山体には迫力がある。伊奈ヶ湖への道は、山地にはいると石垣で囲われた棚田が段々と連なるように続き、標高が上がると共に釜無川を見下ろす風景が広がる。14:00 伊奈ヶ湖着。11月中頃まで紅葉の盛りとは聞いてはいたが、今は人の気配は無く、モミジ葉が枯れ落ちて敷き詰められている。伊奈ヶ湖の波一つない静寂な湖面が水鏡となり、紅葉の木々の佇まいを錦の逆さ絵として映し出している。一同見入ってしまいました。思い思いの散策と写真などを撮り、伊奈ヶ湖畔を巡り余韻を残しつつあとにした。



(伊奈ヶ湖の水鏡に紅葉が映る)



(錦鯉が集まってきた)



(落葉で敷き詰められた坂道)

今晚宿泊する市営温泉「樹園」には三十分遅れで到着。すでに到着していたＹさんＫさんに合流。コロナ禍を経て四年振りの再会である。宿にチェックイン、旅行支援 40%の割引とクーポン券で実質 1000 円足らずの費用となる。高尾穂見神社の夜神楽へは 21:00 過ぎに出発として、夕食までの間に、かけ流しの温泉に浸かり、買い出しの酒や東海チーム差し入れの名物ちくわなど頂きながら、久方の宴となり盛り上がる。

夜神楽の頃合いとなり、楡形山の中腹 850M 付近まで闇夜の道を走らせる。車も少なくこのまま進むのではと期待したが、神社境内や露店の灯を目前にして渋滞となり 30 分程待たされる。車を降り夜店が連なり人の行き交う参道へ向かう。石段を上がり鳥居をくぐり境内に入る。

神楽殿では、すでに舞の奉納が行われており、案内版には天鈿女命 とある。「天岩戸の舞」なのか。暗闇に浮かぶ能面の舞には何とも言えない神代の空気感がありました。また、神子殿では、笛音が流れる中、暗闇に華麗な舞が浮かび、日常を越えた「巫女の舞」に魅せられました。



(「高尾穂見神社」神楽殿)





(毎年 11/22～23 に行われる伝統の夜祭)

23 時過ぎに宿に戻り明日の行動予定を確認。天気は朝方から雨予想。早朝に出発予定であったが、天候状況を見ることにする。

11 月 23 日、予報通り早朝から雨となる。天候の回復は望めないことから、「南アルプス芦安山岳館」を訪ねることにする。同館は、「美しきもののみ機能的である」という丹下健三の精神を継ぐ建築であり、平成 14 年 4 月 1 日の南アルプス市誕生と時を同じくして開館している。その目的は、「南アルプスの多様な自然とそこに生きた人々の歴史や文化の発掘、継承、調査研究——」としている。



(「芦安山岳館」 モダンなデザインの建物)

明るい館内に入ると、左側に山岳図書コーナーがある。幾多の岳人が寄贈しているという。南アルプス、自然系科学、写真集、文学、技術書、雑誌等の山岳書が体系的に分類され圧巻の蔵書でした。

展示室の「山に登る」コーナーでは、「北岳バットレス」と「地蔵岳のオベリスク」が立体模型として忠実に再現されており興味を引きました。また、南アルプス市出身で、幾多の 8000m 峰を登りクーラカンリに逝った加藤慶信氏の遺品や装備なども展示されていました。企画展としては、石川

直樹「ヒマラヤとシェルパ」写真展が開催されていました。退館にあたり館員に楡形山の春夏秋冬登山を計画している旨伝えたところ、内緒でそっと「楡形山ネーチャーガイド」を頂いたとのこと、S.M.さんグッドジョブでした。

同山岳館を終えたところでYさんKさんとは、帰路もあり次の再会を期して、ここで別行動とする。関東組は、昨日の宿に隣接する「ふるさと文化伝承館」移動する。

山梨県には、昨日、休館で行けなかった「釈迦堂遺跡博物館」を始め、7つの縄文遺跡の博物館等があり、同伝承館もその一つである。お隣の長野県では、八ヶ岳山麓出土の国宝土偶「仮面の女神」が、山形県では「縄文の女神」が知られていますが、この伝承館にも国の重要文化財指定される土偶「子宝の女神ラヴィ」があります。館内は広くはありませんが、研究員の方からこの地域の縄文遺跡などについて熱心に説明して頂きました。地縁のあるTさんFさんにも意外な発見もあった様です。縄文土器や土偶には、形としてのイメージしかありませんでしたが、今回で縄文人の生活やこころの中の一部に触れることができた様に思います。



(かわいくて人気というキャラ付き土器)



(水紋デザインの土器)



(子宝の女神ラヴィ のゆるきゃら)

同伝承館を終えたところでランチタイムとなり、Tさんにイタリアンレストランに案内頂き、ピザとパスタを美味しく頂きました。食後には帰路の時間も迫り、最後に「ハッピーパーク」に案内頂き、おみやげを購入し、クーポン券を使い切ったところで帰路に着きました。

今回の「秋篇」は、山行当日が雨天となり楡形山には登れませんでした。伊奈ヶ湖では神秘的な水鏡に触れ、「夜神楽」、「山岳館」及び「縄文博物館」では、楡形山を取り巻く自然、文化、歴史など、結果として、学びの旅となりました。これらの祭りや文化的な施設などには、豊富な情報量があり一度限りというより、折に触れて訪ねることで、新たな気づきや発見があることに間違いはないと思います。次の山行につながる期待を抱かせる山旅になりました。今回の山行の企画から、各地・各所のご案内いただきましたTさんには感謝です。ありがとうございました。

もみじ葉を 踏みしめ辿り 伊奈ヶ湖へ

湖面に映す 錦の逆さ絵

古焼けし 蔵書居並び 山岳館

手に触れ想う 岳人のこころね

(了)